

二〇二二年度

田園調布学園大学

全学部全学科専攻

共通

国語 入学試験問題

一般選抜（個別試験型） B日程

受験番号

（注意）

- 一、解答は、すべて別紙の「解答用紙」に記入してください。
- 二、受験番号と氏名は、「問題用紙」と「解答用紙」の両方の所定の欄にかならず記入してください。
- 三、「問題用紙」と「解答用紙」は、試験終了後、かならず提出してください。
- 四、「問題用紙」に「下書き」「書き込み」などをしてもかまいません。
- 五、試験時間は六〇分です。

氏名

(一) 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

広辞苑によると、頑張るとは「我意を張り通す」、「どこまでも忍耐して努力する」といった意味になります。日常で使っているのは、後者の意味ですので本書でもその意味で扱っていきます。

他にも、「何かを成し遂げるために困難に耐えて努力する」、「困難に耐えながら我慢してやりぬく」といったものがあります。とても A イメージが付きまいますが、逆に「困難に耐えずに努力しない」、でも生活が成り立つのかどうかを考えますと、生まれつきの大富豪や天才でもない、なかなか難しいでしょう。やはり何らかの形で困難に耐えて努力する、つまり頑張らないと、生活はできないと考えるのが普通でしょう。

例えば、仕事を続けるにしても、都会のサラリーマンだったら一般的には「毎朝決まった時間に起きて満員電車に乗って通勤する」、場合が多いですが、これをイメージしただけでも「困難に耐えながら我慢してやりぬく」といった表現がマッチします。通勤だけでも十分頑張っていると感じます。「通勤が苦痛だから仕事に行かない」と言う人がいたら、やはりその人に対して頑張っているといった表現は用いないでしょう。ですので、大半の人たちは何らかの場面でいっぱい頑張っているはずなのです。頑張らないと B できないですから。

一方で、

「頑張らなくていい」

「頑張らない生き方」

「もう我慢しなくていい」

というキャッチコピーもよく聞きます。こうした言葉を聞いてホッとされる方も多いかと思いますが。これらの本来の意味は、これまでいっぱい頑張ってきた人に対して、これ以上無理して頑張らなくてもいい、自らを犠牲にしてまで我慢して頑張らなくてもいい、といったものでしょう。特に精神科外来ではよく出会ううつ病の患者さんには「頑張って」という言葉かけは a キンクです。頑張りすぎて燃え尽きてうつ病になった人たちも大勢おられます。そのような人たちに「頑張って」と声をかけると、「もうこれ以上どう頑張れというのだ」という気持ちになって余計に b フタンをかけ、症状を悪化させてしまうからです。

しかしこれは、そもそも「頑張ること、我慢することが前提だけど、でもそこまでしなくてもいいよ」と言っていることと同じです。また①日本人の文化として、結果を出すまでの過程を評価するところもあります。つまり結果だけでなく、いかに頑張ったかにも評価が下される傾向があります。

現在の採点システムは分かりませんが、私が大学受験した頃、京都大学の入学試験の物理では右ページが解答欄、左のページが計算用紙になっていました。答えは右ページの解答欄に書くのですが、左ページの計算用紙に書いたメモも採点の対象になると言われていました。つまり、計算ミスで答えが間違っている、計算用紙に書いた考え方が正しければ部分点を与える、といった形になっていました。これは C 答え、つまり結果を出すまでの過程を評価しているといっているでしょう。答えを出すまでに如何に頑張ったかを評価しているのです。

「頑張らなくてもいいよ」「もう我慢しなくていいよ」とは十分に我慢して頑張ってきた人たちへの労りの言葉であり、まだ頑張っていない人への言葉かけではありません。ところが「頑張らないで生きよう」「少し手を抜こう」といった言葉がメディアを介して目に触れると、「そうか。頑張る必要はないんだ」と頑張らない人たちも誤解してしまうことがあります。

分かりやすいのが、小学校で勉強している子どもたちです。いつも学校で勉強をしています。それは子どもたちが、「勉強が好き」「勉強したい」「学問を楽しみたい」という気持ちで勉強しているというよりも、「親から怒られたくない」「先生に叱られたくない」「友だちに負けたくない」といった動機づけが先にあることがほとんどでしょう。ですので、
D 勉強嫌いな子どもであれば、さぼれる口実があればいくらでもさぼり始めます。特に、信頼する先生のような大人から「頑張らなくてもいい」と言われると頑張ることを止めてしまうでしょう。

しかし、何らかの形で頑張らないと、この社会では生きていけないのは事実です。つまり

②「頑張らなくてもいい」といった安易な言葉かけは、場合によっては無責任であり、今その相手が直面している課題をどんどん先送りにしてしまうリスクがあります。計算が苦手な子どもに「頑張らなくてもいいよ」と言わないまでも「計算は苦手でも漢字は得意だから」といつて一時的のぎをして計算の習得を頑張らせなければ、その子は確実に授業についていけなくなります。

E 誰が責任を取れるのでしょうか。

現在、私は某市で発達相談をやっています。そこには主に勉強についていけない小学生低学年の子どもが保護者に連れられて来ることが多いのですが、相談ケースには「上のお兄ちゃんは特に勉強で困ることはなかったけど、この子はどうも点数が取れなくて。その原因が知りたいと思って」といったものがよくあります。

そこで知能検査を含め様々な検査を行います。多くが境界知能(明らかな知的障害ではないが、正常域を下回る境界域にいる子ども。おおよそIQ70〜84)であることが多いのですが、そのc旨を伝えると、たいていの保護者は「そうだったのですね。ではどうしたら？ 今、できることをしてあげたい」と答えられます。必ずしもよくなるかは分からないが少しでも伸びる可能性があるなら親としてやれることはやってあげたいといった気持ちで、これには当然も同意見で、できるだけ支援策をお伝えしています。

しかし、一方でこう言う保護者もおられます。

「この子は、勉強はいいんです。本人のペースでのんびり生きたらいいと思います。 F 、

勉強ができない原因だけは知っておきたくて」

保護者のお気持ちはよく分かります。やってもできないのなら勉強をd強いると本人が可哀そう、といった気持ちもあるでしょう。しかし、③この考え方には違和感を覚えます。「勉強を頑張らなくていい」。これは、保護者が勝手に決めていいことなのでしょうか。

その子どもが例えば境界知能なら、明らかな障害ではありませんので、小学校では通常学級に在籍します。しかし、境界知能はかつて知的障害と区分されていた時代がありました(WHO国際疾病分類ICD-8…1965〜1974年)。実際は、平均的な子どものだいたい8割くらいの発達レベルです。つまり10歳の子であれば、8歳くらいの精神年齢です。小学4年生の中に小学2年生の子が混じっているイメージを想像してみてください。

そしてその後、小学校中学年、高学年、中学校、高校と毎日毎日勉強しに学校に通うわけです。

もし、そこで勉強をしないとどうなるか。授業でいったい何が話されているかも分からず、ただ座っているだけで、同級生からほとんど置いていかれます。また同級生との会話にもついていけずeコリツしたり、いじめに遭ったりする可能性も生じ、結局は本人が辛い思いをするのです。

親から「勉強しなくていい」と言われると、そもそも勉強がしたくない子どもであれば、親から④お墨付きをもらったと思ひ安心し、ますます勉強しなくなるでしょう。『不器用なままでもいい』『みんなと同じにならなくていい』『みんなちがってみんないい』といった声もよく聞きます。これはこれで否定するつもりはありませんし、実際その通りだと思います。しかし私は、それは

G 場合に限る、と思っています。周りの大人が子どもの気持ちや可能性を確かめず、一方的にそう考えて、今できることすらさせなければ、子どもの可能性を潰し、障害を作りだしてしまう可能性もあるのです。その被害者は子どもたちなのです。

H 子ども自身に聞いてもなかなか明確な答えは返ってこないでしょう。理解できないこともあります。しかし想像してみてください。もしみなさんが子どもだったとして、いくら親がこのままでいい、と言ってくれても、みんなができているのに自分だけができていなければ、かなり辛い思いをするのではないのでしょうか。そこを大人が『そのままでもいいんだよ』と言っても、その時はよくても時間が経つにつれて子どもがどんどんと辛くなってくるのは目に見えています。⑤折り合いをつけることができるのは大人でなく、本人なのです。

宮口幸治『どうしても頑張れない人たち―ケークの切れない非行少年たち―』新潮社 2021年

問一 二重傍線部a eについて、漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に改め、楷書で正確に書きなさい。

問二 傍線部④「お墨付き」、⑤「折り合いをつける」について、本文中の意味として最も適当なもの、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

④お墨付き

- ア 面倒が起こりさえしなければよいという許し
- イ 子どもなど相手のしたいように放っておくこと
- ウ 権威のある人や機関などから与えられた保証
- エ 確かであるという保証がついていること
- オ よく考えた行為だとほめたたえられること

⑤ 折り合いをつける

- ア 対立する考えを譲り合ってうまく解決する
イ セリフや声など調子の高低・強弱をつける
ウ 物事の是非・善悪・真偽などを決める
エ 混乱した事態をおさめまとめる
オ 他に刺激を与えるような意見を投げかける

問三 空欄Aに入る最も適当な語を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 勇ましい イ 哀しい ウ 冷たい エ 辛い オ 空しい

問四 空欄Bに適する語を、文中から選んで入れなさい。

問五 文中の空欄C・D・E・F・Hに入る最も適当な語を、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア あたかも イ いたい ウ 決して エ ただ オ なかなか
カ ほとんど キ まさに ク まず ケ もし コ もちろん

問六 傍線部①「日本人の文化として、結果を出すまでの過程を評価するところもあります」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本人には、「結果はどうであれ頑張ろう」というように、結果は無視して、それまで努力を続けることに意義を見出そうという考え方があ

イ 日本人には、「とにかく頑張れば何とかなるさ」というように、我慢してやり抜けばそれなりの成果を必ず出せるという考え方があ

ウ 日本人には、「うまくいかなかったが、頑張ったからよい」というように、成果とは関係なく、努力することそのものが価値となるという考え方があ

エ 日本人には、「結果を出さなければ意味がない」というように、成果を出すためにはどんな努力も惜しまないという考え方があ

オ 日本人には、「あと三年だけ頑張ってみよう」というように、成果とは無関係に、ある期間我慢してやりぬくことに価値を見出そうとする考え方があ

問七 傍線部②「頑張らなくてもいい」といった安易な言葉かけ」とあるが、筆者はなぜそのように考えているのか。その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「頑張らなくてもいい」は、頑張らなくても生きていけるのだという実態を知らせる。その場限りのいい加減な言葉がけだから。

イ「頑張らなくてもいい」は、よく頑張ってきた人たちに対する気遣いの言葉であって、たいして頑張っていない人にむやみにかける言葉がけではないから。

ウ 「頑張らなくてもいい」は、社会で多くの経験をした大人に向けて言われる言葉であつて、発達の途中にある子どもたちに対する言葉ではないから。

エ 「頑張らなくてもいい」は頑張りがすぎて燃え尽き、うつ病になった人たちのための言葉
がけであつて、一般的な生活を送っている人に対するものではないから。

オ「頑張らなくてもいい」は、子どもたちの勉強に対する姿勢を台無しにしてしまい、教育の可能性を否定することになってしまふから。

問八 傍線部③「この考え方には違和感を覚えます」とあるが、なぜ筆者はそう思うのか。八〇字以内で説明しなさい（句読点や記号を含む）。

(下書き用)

[illegible]

問九 空欄Gに入る表現として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ある程度勉強ができる

イ 大人が責任を取れる

ウ　これまで十分頑張ってきた

知的障害を持つ子どもである

才 本人自身もそう希望する

問十 次は本文を読んだ高校生が意見を述べたものである。文章の主旨に基づいて意見を述べているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「みんなと同じにならなくていい」「みんながっていい」は子どもひとりひとりの個性を重んじるすばらしい言葉だと思います。それを否定するのはおかしいと思います。

イ 子どもにははかりしれない可能性があります。だから、勉強では頑張れなくても他の面で頑張れるところがあればよいと思います。

ウ 社会で生きていくためには「頑張る」ことが求められている以上、まだ成長過程の子どもたちにとっては「頑張る」ことを教える責任が大人にはあるのだと思いました。

エ 小学校の通常学級では、境界知能の子どもたちの、なかなかできない頑張りを、そうでない子どもたちがカバーしていけばよいと思います。

オ 頑張らなくていい、そのままでもいいという言葉は大人の嘘だと思います。子どもはそれに騙されて自分の人生を台無しにしてはいけないと思います。

(二) 次の【文章Ⅰ】と、【文章Ⅱ】を読んで、後の問いに答えなさい。

【文章Ⅰ】

兄のこぐ自転車にひきずられるように、ぼくは必死になって荷台をつかみ、横を走っていた。荷台に積んだ天体望遠鏡がガタガタ音をたてる。

もう走れない、だめだと思うころ、いつも必ず高台に着く。だけど今日は楽に着いてしまった。肩で軽く息をつく。何度も走っているうち、体が慣れたみたいだ。

「ほら、あれ」

兄が地平線の方を指差した。

「北斗七星」

ぼくが答える。

「うん」

兄が満足してうなづく。

ぼくが見つけたこの高台は二人だけの天体観測所だ。兄が所長でぼくが副所長。大阪に引っ越してきてから星が見える夜は毎日といっていいほどここに来ている。

父の死後、母と兄とぼくの三人が大阪に引っ越してきたのは八月の終わりだ。引っ越しの夜、マンションの窓から見た空は東京と同じだった。東京も大阪も

A

「大阪の夜はねちっこいね」

その時、母はいった。なぜか、いつか母の友だちという女の人がつけていた口紅が大阪の夜空に重なった。

でも、この高台にあれば、夜は本当の夜だった。初めてここに来た時、兄が教えてくれた北斗七星は、北の空にスタンプで押したようにそこにある。

兄が荷台にくくりつけた五センチの天体望遠鏡を降ろしはじめた。死んだ父が兄の誕生日に買ってくれた望遠鏡だ。でも、兄は「これは二人のものだからな」といつてくれている。

初めてこれで星を見たのは、小学校に入った年の夏だ。買ったばかりの望遠鏡を父と兄がかついで、近くの空地に行った。ぼくは①手持ちぶさたで後ろからついていった。

「見てみる、俊夫」

父がぼくを抱えて a セツガ ン レンズの所に持ち上げた。タバコの匂いがした。少し苦しい。

月が、丸い視界の中からはみ出しそうに輝いている。煎餅のようにぶつぶつした穴も見える。

「ウソだあ」

B

。だって月はあんなに遠いじゃないか。望遠鏡の先に紙を貼っているんだ。信じられない思いで兄を見た。

「本に出ている写真と同じだ」

と、喜んでいる。

信用した。よし、それなら。今度は、②あてずっぽうに星を指し、

「あれが見たい」

と父に頼んだ。父は笑いながらその星に望遠鏡を合わせてくれた。

「これ？」

レンズの中には、期待していた火が燃え盛る星もなければ、サハラ砂漠のような砂の星もない。

肉眼で見えるのと同じ星が、やっぱりチカチカしているだけだ。

不思議に思つて父を振り返ると、③兄が、父の隣で笑いころげていた。

その夜、父は星が地球からどのくらい遠くにあるか、どのくらい大きいかを話してくれた。何千光年も遠くにある星。光が一年間に進む距離を一光年として何千年。ぼくは覚えてたの「無限」という言葉を思つた。でも、それはポテトチップスが無限にあつたらいという時の「無限」とは違う。考えようすると頭がしんしんする無限だ。

C 。ぼくは父の首にしがみついた。

それがぼくと星との出会いだった。そういえば、あの夜、母は何をしていたのだろう。

今はあの時とは違う。

父と兄にいくつもの星座の名前も教わたし、銀河宇宙の大きさも知っている。望遠鏡だつて兄がいなければ、自分ひとりで使えると思う。今日だつて、おうし座流星群を見にきたのだ。二人で望遠鏡をかついで斜面を登る。一〇分も登ると、昨日の雨で湿ったカヤが足にまとわりつき、露がくつ下をつき抜け、足の指の間でうずくまった。

頂上に着く。兄が望遠鏡を組み立て、スバルに合わせ始めた。

ぼくは、『季節の星座』という本を開いた。bカイチュウ電灯をつける。おうし座の肩にあたるスバルは今の季節は東の空にあると書いてあつた。

おうし座を探す。

スバルはすぐに見つかったが、角にあたる星が天の川にひつかかつてわかりにくい。

D 。なぜ昔の人は牛だとか、蛇だとか思いついたのだろう。そんな風に見えるたことはないし、星を線で結んでも形にはならない。角の星が見えないなら今夜はめうし座にしかたっていないだろう。

「見えたぞ」

兄がスバルをつかまえたらしい。「ホラ」といつてかわつてくれる。

「いくつ見える？」

「一つ、二つ、三つ。うーん一五ぐらいかな」

目で見ると、スバルは六個ぐらい見える。この望遠鏡を使えば、二〇個ぐらいは見えるはずだ。

「兄ちゃん」

④思わず、望遠鏡から目を離さず大きな声を出した。

流星だった。

兄が、黙りこくつたまま地面にしゃがんで空を見上げている。

天の頂上あたりにカシオペアがあつた。じつと見ていると、WがMに見えてくる。そして、体重がふうつと消えていくように感じる。宇宙に二人だけ取り残されたようで急に不安になる。

E 転校した学校のことを思ひだした。東京から来たこと。言葉がちがうこと。なにかという「東京」とバカにされる。ぼくのが学校のヤツらはなんでも気に入らないらしい。

「俊夫、学校で友だちが出来たか？」

兄が出し抜けに訊いた。

「うん」といおうとしたが、急に訊かれたのでノドがつまってなかなかいえない。なぜだか涙が出てきた。

「いじめられているのか？」

兄が F 訊いてくる。

鼻をグスグス*グ*ンいわせながら、それでもなんとか「違う、違う」というと、G 涙が
出てきた。

「そのうち、友だち、出来るよ。仲間に入ろうとしなきゃ、だめだよ。誰か気の合いそうなヤツ
いないのか。星を見るのが好きなヤツとか。この望遠鏡、学校に持っていていいよ。友だちに
見せてやって、おまえの知っている星の話、してやれよ。オレは、三年になったら天文部の部長
になれっていわれてんだ」

兄が笑いながらいった。

「天文部の部長！ すごいよ、兄ちゃん」

涙がとまった。

「もうすぐ、シリウスの季節だなあ」

兄が東の空を見る。

「シリウス、うん」

「来月になるとシリウスが東の空に顔を出す。砂漠のアラビア人はシリウスを『千の色の星』と
も呼ぶんだ。見ている間に、青、白、緑、紫とプリズムみたいに色を変えるから」

「シリウスって一番明るい星だよね」

「そうさ。でも、直径は太陽の二倍しかない。地球からの距離が八・六光年で、日本から見える
恒星では最も近いから明るく見えるんだ」

兄の力強い話し方は H 死んだ父そっくりだ。

「八・六光年かあ」

八年前といえば、まだ父が生きているころだ。その時シリウスを出発した光がもうすぐ地球に
届く。⑤宇宙は巨大なアルバムだ。ぼくらは⑥宇宙の隅っこに取り残されているわけじゃない。

ぼくは、『勇氣』を取りもどした。

ビートたけし『少年』新潮社 1992年

【文章Ⅱ】

ゆうぐれ、川原の土手の草のなかに、ぼんやりと寝ころんでいた。見あげる空が突きぬけてひ
ろかった。

川水の音を聞きながら、ぼくは考えた。空のふかさについて。そのふかさにつもる時間につい
て。⑦時間のひとすみにうごめく人間について。

そしたら思わずくしゃみ嚏がでて、ぼくというちっぽけな人間なんか、世にもつまらなく思われた。
そこらにころがっている木の根っこ変りがない。そんなふうにして、ぼくはたそがれてゆく空
のかげりを長いあいだ眺めていた。このまま木の根っこになつてしまえばよい。わざと、

I 。

ところが、やぶ蚊が一匹二匹と耳もとでうなり声を立てはじめた。ズボンからはみでた足を喰

われて、ぼくはもじもじと軀みをうごかし、ほとんど J 。すると頭のうえをヒ

ュツとc掬くめたものがある。うす闇にまぎれて見えなくなったと思うと、またくるりと向きを変え、ぼくのうえをヒュツと通る。一匹の中型のヤンマだった。きつと蚊をとっているのだろう、電光形にジグザグのコースをとりながら、忙しくあたりを飛びまわっている。ぼくはじつと⑧息をころした。ヤンマをおどかさないように、ふたたび木の根っこ化しただ。

そのうち、おどろいたことに、ぼくのまわりから蚊のうなり声が多々聞えなくなってしまう。みんなヤンマが食べてしまったのだらう。ヤンマはぼくの鼻先すれすれにピュツと通りぬけたり、危うくぼくの腹にぶつかりそうになつては翅は音をたてて方向を変えたりした。それを見たら、ぼくはなんだか悲しくなってきた。ヤンマもやっぱり、ぼくのことを K 。

ぼくはもぞもぞと身体を起して、枯草のくつついたズボンをはたきながら立ちあがった。ヤンマはびっくりして、もちろんどこかへ消えて見えなくなった。

ぼくは、二、三度首をふってから、のろのろと寮のほうへ引返した。反対側の土手を降りようとする、草むらのなかから人間の姿がふいに立ちあがった。ひとりの男とひとりの女である。夕闇に白いおんなの顔とdコンワクの瞳が、極度にぼくをe狼狽ろうたいさせた。

大空について。昼は消える星たちについて。せつかく川原で考えたこともまるきり忘れてしまった。

なにがぼくの頬を赧あからめさせたのか。ぼくは考える気がしなかった。なにより腹がへっていたからである。

北杜夫『少年』中公文庫

問一 二重傍線部 a ~ e について、漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に改め、楷書で正確に書きなさい。

問二 傍線部①「手持ちぶさたで」、②「あてずっぽうに」、③「息をころした」について、本文中の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 期待して
イ 手ぶらで
ウ 気乗りせず
エ 遅れがちに
オ 間がもたず
- ①手持ちぶさたで

問五 傍線部④「思わず、望遠鏡から目を離さず大きな声を出した」とあるが、その理由の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 望遠鏡を譲ってくれた兄に探していた星を見つけたことを知らせたかったから
イ 兄が数えた星の数よりも多くの星をスバルに見ることができたから。
ウ スバルを見ていたのに思いもよらず望遠鏡に流星が見えたから。
エ いつもはWにしか見えないカシオペアの形がその時はMに見えたから。
オ 近くにいる兄がずっと無言でいることに急に不安になったから。

問六 空欄 E・F・G・H に入る最も適当な語を、次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア きつと
イ よけい
ウ まるで
エ 重ねて
オ 不意に

問七 傍線部⑤「宇宙は巨大なアルバムだ」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 宇宙からの星の光を過去の数々の思い出としてたえた暗喩が使われている。
イ シリウスを父が生きていたことを証明する星にたとえた暗喩が使われている。
ウ 宇宙の広大さと家族の思い出の大きさを同一にみるための比喩が使われている。
エ 父が生きていた八年前の出来事が消えてはいないという意味の直喩が使われている。
オ 父が生きていた八年前の光がもうすぐ地球に届くという意味の直喩が使われている。

問八 傍線部⑥「宇宙の隅っこ」と傍線部⑦「時間のひとすみ」に対して、それぞれの文章の「ぼく」はどのように考えているか、一〇〇字以内で説明しなさい（句読点や記号を含む）。

(下書き用)

[illegible]

問九 空欄Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに入る最も適当な文を、次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 木の根つこのように扱ったからだ
- イ 木の根つことは無縁にふるまつた
- ウ 木の根つこの状態を中止しようとした
- エ 木の根つこのふりして、じつとしていた
- オ 木の根つこのことは忘れていたからだ

問十 本文の内容についての説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いずれも少年期特有の孤独感を描いた作品だが、兄と「ぼく」との軽快な会話を中心にしたユーモラスな【文章Ⅰ】に対し、【文章Ⅱ】は「ぼく」の内面の心情を中心にした穏やかな表現が続き、より一層家族不在の寂寥感が伝わるよう描かれている。

イ 転校生として学校になじめずにいた「ぼく」が兄の助けを受け自立していく少年として描かれた【文章Ⅰ】と、自然のなかに居場所を見つけ、虫や植物との関係のなかに生きる「ぼく」を描いた【文章Ⅱ】とは、社会的自立という点で対照性が際立っている。

ウ いずれも空や星を見る少年をテーマにした作品だが、【文章Ⅰ】が季節や星の名前などを随所に入れて具体的なリアリティを重視しているのに対し、【文章Ⅱ】では空の深さや時間など抽象的な表現を多くすることで、より普遍的な少年の在り方を重視している。

エ いずれも星や空をきっかけとしながら、【文章Ⅰ】では兄とともに天体観察をすることや亡き父との過去を思い出している少年が書かれ、【文章Ⅱ】では木の根っこやヤンマなど身近な自然環境に触れながら思索を行っている少年の情景が書かれている。

オ 【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】を通し、兄に亡き父の姿を重ねたり、ヤンマや木の根つこを擬人化したり、星の発する光の速度や宇宙と人間との大きさの比較から哲学的考察をしたり、ほのかに異性の存在を意識したりなど、少年期に特有な心情が描かれている。

(三) 次の文中の空欄にあてはまる最も適当な語句を、選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

①夜のとぼりが（ ） 、あたりは静寂に包まれた。

ア はねて イ あけて ウ おりて エ ひらいて

②送別会も終わり、社員は三々（ ） 帰っていった。

ア 四々 イ 五々 ウ 六々 エ 七々

③（ ） 思うに、あのときの私たちは互いを思いやる余裕がなかったのだろう。

ア しずしず イ ゆるゆる ウ つらつら エ うつつ

④異郷の地で、遠い故国に思いを（ ）。

ア 馳せる イ 浮かべる ウ 沈める エ 誘う

⑤（ ） 、彼女は黙って湖を見つめていたが、突如私に笑顔を振りむけた。

ア 近時 イ 往時 ウ 漸次 エ 暫時

⑥お客様、御予約のお名前を（ ） もよろしいですか。

ア お聞きになられて イ うかがって ウ 聞いて エ 頂戴して

⑦あの評論家が、口を（ ） 褒めるので、その映画を観てみたい。

ア すぼめて イ 丸めて ウ 極めて エ 割って

⑧先生のお話を聞いて、目から鱗が（ ） ました。

ア おち イ こぼれ ウ はがれ エ とび

⑨旧暦の十一月の異名は（ ） である。

ア 文月 イ 如月 ウ 睦月 エ 霜月

⑩長年（ ） たのも、ファンの皆様のおかげです。

ア 歌ってこれ イ 歌ってこれ ウ 歌ってき エ 歌わせられ